

地 理 教 育
鐵 道 唱 歌

第 二
上 野 崎 高 信
越 間



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 3

(本符)

(信越線)

〜調



ニツボン アツドー オホヨヤ ナ
くまがや えーきい なほざれの



ハナレタ スースマ アゲチエ キ
なーざりのこして いまもなほ



ナケガハ コーノス リチエエ ナ
れんじやう ざーんの せれさむく



ユークメ フキアゲ アユド ユロ
しよきやう むじやう さひびくなリ



4039

上野 赤宮 大尾 上川 桶ノ 鴻ノ 吹上 熊谷

(停車場)

日本鐵道大宮を
 上野 赤宮 大尾 上川 桶ノ 鴻ノ 吹上 熊谷
 蓮生山の鐘寒く
 諸行無常とひくなり、

上野高崎直江津新潟間

(名勝地)

蓮生山熊谷寺

(略符)
 (信越線)

2
4

へ調

1. 1 1 3	5. 5. 5. 3.	2. 1. 2. 2.	2. 0
— — — —	— — — —	— — — —	— — — —
ニツボン	くまがや		
1. 1 1 3	5. 5. 5. 3.	2. 5. 3. 2.	1. 0
— — — —	— — — —	— — — —	— — — —
ハナレテ	なごり		
5. 5. 6. 6.	5. 5. 3. 1.	5. 5. 5. 3.	2. 0
— — — —	— — — —	— — — —	— — — —
ナケガハ	れんじやう	コーノス	ウチコエテ
		ざんの	かれさむく
5. 5. 1. 2.	3. 3. 5.	5. 6. 5. 5.	1. —
— — — —	— — — —	— — — —	— — — —
ユークバ	しよぎやう	フキアゲ	アユドコロ
		むじやうと	ひびくナリ

深谷

西に峙つ秩父山

秩父山

其の北永井は實盛也

永井村

深谷に來れば六彌太也

源氏時代の英雄の

昔むたりは其のむかし
面かげ残る普濟寺

普濟寺

本庄
新保原

本庄驛や新町は

生絲の産地名も高く

多胡の碑ふりなから

多古碑

和銅四年と讀まれたり、

見よや西方五里の道

神流の川の水きよく

神流川

奇岩突兀起伏して

いそめづらしき景色なり、

倉賀野
高崎

高崎町の朝霧に

浅間の煙りたちそひて

浅間山

喇叭の聲も勇ましく

營所の方にひくなり、

下仁田線の分れ路に

國の富をば増すといふ

富岡町の製絲場

誰も見む人驚かん、

高崎
山名
吉井
福島
富岡
一ノ宮
下仁田

前橋

高崎分れて六哩

行けば上野第一の

都會前橋市にいたる

群馬縣廳ここにあり、

榛名の山の湖に

映る小富士のかげやさし

物聞山のほこぎす

なる伊香保の湯もあるし、

榛名山

榛名湖

小富士

物聞山
伊香保
温泉

尚も奥へと澤渡や

澤渡温泉

四萬川越せば四萬の里

四萬川
四萬温泉

白根 罎に誘はれて

白根山

煙りたなびく草津の湯

草津温泉

奇しき眺望はあらねども

海を抜くこと高ければ

釜中の魚の苦みを

夢にも知らぬ好避暑地

赤城の山を左に見

赤城山

駒形

駒形越せば紬にて

伊勢崎

其名も高き伊勢崎や

義貞朝臣の勤王の

旗を挙げたる笠懸野

笠懸野

三奇の一人と呼ばれたる

高山氏の舊跡地

高山神社

尋ねて見るも亦ゆかし

國定
大間々

桐生

小侯
山前

足利

俠客忠次の生地なる

國定過ぎて大間々や

幾百萬の織物を

毎歳出す桐生町

小侯山前束の間に

越ゆれば又も織物に

名をば上げたる下野の

足利にこそ來るなれ

小野篁建て初めし

足利學校おこづれて

孔子の廟にぬかづきつ

古き書物繙げば

如何に智識を増すならん

反服常なき嘲りを

末の代にまで残したる

室町將軍蹶起の地

足利學校

町を周れる渡良瀬の

渡良瀬川

水上深く尋ねれば

古へ勝道上人

白き猿に案内させ

分入り初めし所にて

其名に因む庚申山

庚申山

百間幕の巖石を

眺めて行けば茸石

岩間幕岩

茸石

先方に峙つ櫓石

櫓石

見るもいふせき女體石

女體石

をのゝきく一の門

一ノ門

潜れば數丈の梵字石

梵字石

溪間にそひて屹立し

風に傾ふく風情なり

更に進めば富士見岩

富士見岩

拳に似たる螺石

螺石

蠟燭石は道路の極

蠟燭石

こゝに踵をめぐらせば

胎内竇二つあり

胎内竇

小なる方は匍匐ひつ

大なる方は立ちしまゝ

潜り潜れば奥の院

奥ノ院

數へ盡くせぬ怪石の

奇景は眞に別世界

富田 佐野 葛生 多田 田沼 吉水 佐野 越名

山に續きて二里南

銅鑛出す足尾あり

足尾銅山

富田過ぐれば佐野の驛

葛生越名にいたるみち

唐澤山は秀卿

唐澤山

住みし跡なり館林

館林

文福茶釜の怪談を

傳へし茂林寺今もあり

茂林寺

岩船
富山
栃木
小山

船を倒し、山の姿

岩船越して富山の

次は栃木の停車場

西に見ゆるは太平山

水戸の浪士の天狗等

逃げて籠りし跡は今

古松老杉日光を

遮る中に赤間沼

岩船山

太平山

赤間沼

高崎
飯塚

利根の流を打ち眺め

そよぎふきくる涼風に

夢結ぶてふ公園と

なりてとむらふ人多し

もと來し道に引返し

高崎驛を後に見て

更に西へと進みなば

やがて迎ふる飯塚や

安中磯部

安中過ぐれば磯部驛

浴の客の寄り集ふ

カル、ス泉の効験は

開け行く世に知られたり、

天狗の剃りし鬚岩と

ともにしらるゝ妙義山

松井田去りて道一里

新堀五料後にして

磯部磯泉

天狗ノ剃鬚岩

妙義山

新堀五料

松井田

横川

つくは横川碓氷川

川瀬の波に珠はしる、

吾孀はやと呼ばりし

碓氷峠はこゝぞかし、

留夫の山にふるあこの

名残こゝむる蕨餅

嶺にも尾にもおりかくる

もみぢの錦綾なして

碓氷川

碓氷峠

留夫山

秋の景色は外にまた

たぐひまれなりトンチルの

数は合せて二十六

長さは總て三哩

一つを送りやがて又

一つ迎ふる有様は

暗より出て、暗に入る

心地せられていとおかし

人の往還絶えたりし

山のいたゞきたひらげて

拓きし熊の平驛

いともさびしき山家なり、

熊ノ平

碓氷の西の輕井澤

海を抜くこと四千尺

四面に山を繞らして

夏の暑さも知らぬなり、

御代田
小諸中
大屋田

御代田小諸を後にして

田中大屋に上田驛

眞田城のその趾は

眞田城址

さびしき月ぞまもるなる、

坂城出て、西向けば

坂城

姨捨山に照る月の

姨捨山

田毎にうつる秋の夜も
思ひ知られておもしろし、

田毎ノ月

屋代

屋代の里の東北

千曲隔て、一里半

千曲川

松代町さきこえしは

松代町

象山翁の故郷なり、

篠ノ井

千曲に近き篠ノ井を

過ぐれば鐵橋犀川に

犀川

かゝりて昔し甲越の

兩將久しく戦ひし

川中島の戰場は

川中島

遠く右手にひるがれり

さして語らふ違もなく

急ぐ車に影かくる

日本最古の佛像を

安置せるてふ善光寺

善光寺

争ひまぬる老若の

おりてつどへる長野驛

長野

左に戸隠山を見て

戸隠山

着くは豊野の停車場

秋の錦をさながらに

映せる水は琵琶の池

琵琶池

いと怖ろしき地獄谷

地獄谷

針の山さへきこゆれど

針ノ山

暑さ忘るゝ温泉に

湓温泉

楽しく遊ぶ人もあり

吉田 豊野

牟禮
柏原

新關田
井山口

高田

牟禮柏原打ち過ぎて

野尻に著るき芙蓉の湖

倒さに映る小富士山

棹さす波に雪ぞ散る、

關川越えてわけ行けば

田口關山新井驛

北越一の大雪と

世に響く名の高田町、

野尻村
芙蓉湖

小富士山

關川

直江津

西に見ゆるは春日山

上杉氏の舊城趾

秋の霜夜に月影を

かすめて行くや雁の聲、

窓より近く直江津の

湊も見えて風さむく

豫てかくさは聞きぬれど

立つ波高し磯の上、

春日山

春日新田
犀潟
柿崎
鉢崎
青梅川

右に見ゆるは佐渡が島

左に見ゆるは能登の國

雲にやあらん山にやこ

問へど答はぬ海人が船

北越線に乗り替へて

春日新田出てぬれば

五つの驛の其の次は

柏崎にこいたるなり、

佐渡島

能登國

柏崎
安田
北條

塚山
來迎寺
宮内
長岡

北條近くなるまゝに

ゆるぎなき世の不動瀧

流れて落つる三層の

下は玉ちる鯖石川、

いはふ君が代長岡に

沿ひて流るゝ信濃川

草生津町にかけたるは

長生橋と世に呼ばる、

不動瀧

鯖石川

信濃川

草生津町

長生橋

左手にたてる彌彦山

彌彦山

麓にまつる御社は

越後の國の一の宮

彌彦神社と知られたり、

彌彦神社

山の西北一帯は

北越一と言ひ囃す

有明浦の好き景色

有明浦

眺望は何時も厭わざらん、

見附
帯織

三條
一ノ木戸
加茂
矢代田
新津

三條過ぎて一の木戸

加茂や矢代田新津驛

五泉町とは袴地に

五泉町

其名もしるき小都會

越後に名高き七不思議

その一つなる火の井戸は

火井

蒲原郡や頸城郡

いたるところに地をうがち

瓦斯をよばひて燈火に

用ぬることぞ其の上は

燃ゆる水なり燃ゆる土

と不思議にもかぞへしが

いや開け行く大御代の

深きめぐみのしるしには

これぞ石油石炭と

知りてあやしむものもなし

油井

沼垂田

こゝに北越線つきて

外國人と貿易の

五港の中のその一つ

新潟市とは川ひとゑ

萬代橋のこなたなる

沼垂驛につきにけり

見渡す前は佐渡ヶ島

黄金白銀掘り出す

新潟市

佐渡島

人の勞苦は如何ならん
 便船あらばわたり行き
 順徳院の御あそを
 たづねまっらんかしこも

明治三十三年八月三十日印刷
 明治三十三年九月六日發行

著作者 尙榮堂編輯部

發行者 小川寅松
 東京市京橋區南紺屋町十八番地

發行所 小川尙榮堂
 同京橋區南紺屋町十八番地

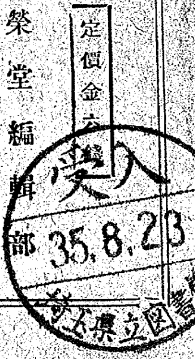
印刷者 中野鉄太郎
 同京橋區木挽町三丁目廿三番地

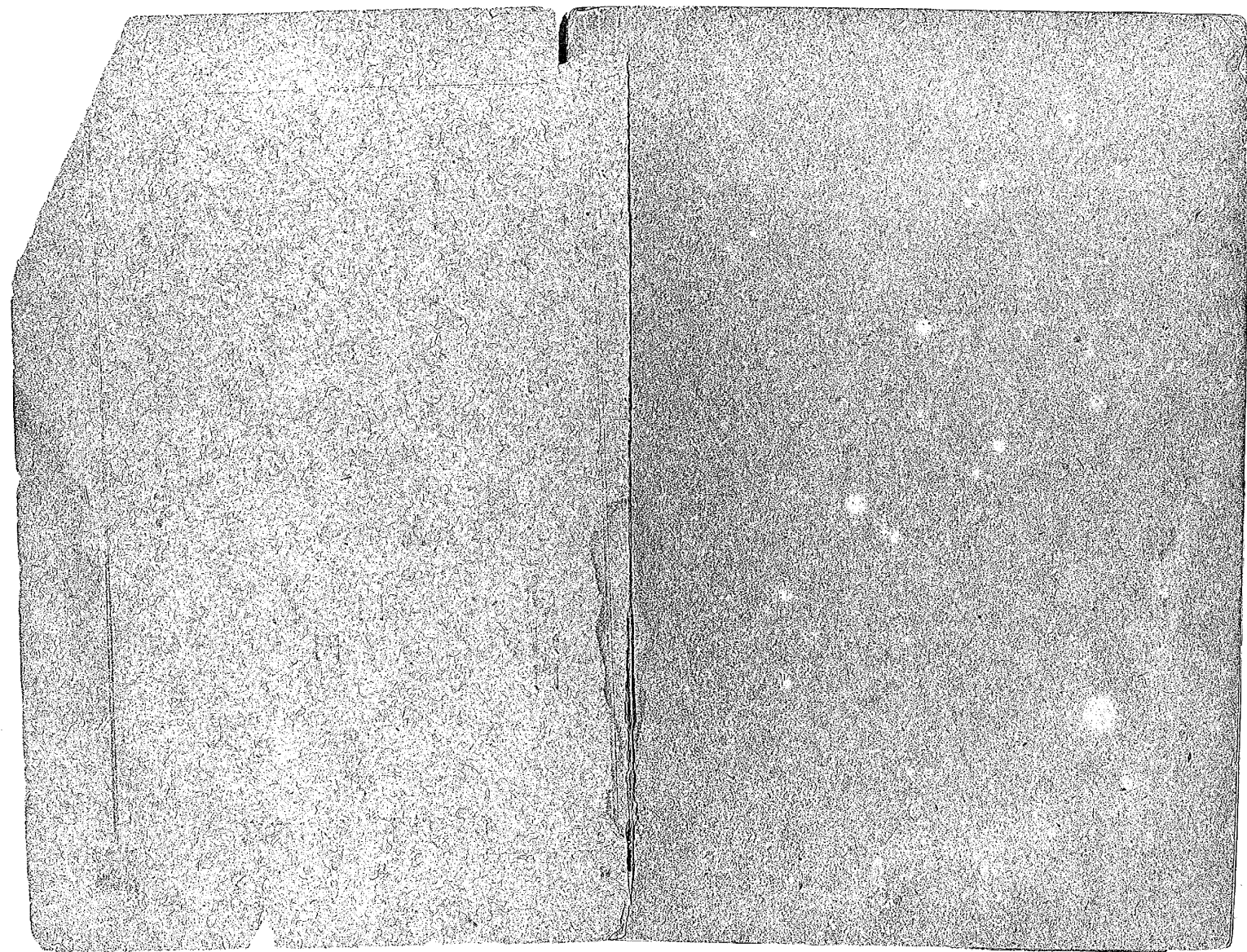
印刷所 帝國印刷株式會社
 同京橋區築地三丁目十五番地



地理
 教育
 鐵道唱歌

第一上野青森
 第二上野青森
 第三上野青森
 第四上野青森
 第五東海
 第六關西
 第七關西
 第八關西
 第九關西
 第十關西





地理
教育

鐵道唱歌

● 第一 上野 青森間

● 第二 上野 前橋 信越間

● 第三 田端 水戸 岩沼間

● 第四 本所 銚子 大原、東金間

● 第五 新橋 神戶間

● 第六 關西名古屋 網島間

● 第七 米原 富山間

● 第八 飯田町 八王子 甲州間

東京尚榮堂小川刊行